

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	立命館大学
-------	-------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	目的は概ね実現された。
(コメント)	
<p>拠点大学の国際化については、「立命館憲章」及び中長期計画等により、国際化戦略が明確に位置付けられ、「学園国際戦略会議」の構築等国際化のための全学的体制が適切に構築されている。また、国際関係学部の教員任用に当たっては、全て国際公募を行うなど、優秀な教員確保の努力がなされ、FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動も頻繁に行われていることは評価できる。事務職員の国際的な視野・スキルの涵養のため、能力開発にも積極的である。更に、国際化への取組は、毎年度外部評価によってチェックされており、国際化への努力がなされていることも評価できる。</p> <p>英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、概ね計画どおり開設されているが、テクノロジー・マネジメント研究科（博士課程前期課程）については、大阪いばらきキャンパスへの移転計画との関係で、補助事業期間終了時までには開設されていないため、今後の開設が望まれる。</p> <p>留学生受入のための環境整備については、海外拠点を計画どおり設置するとともに、英語能力の条件を満たした日本人学生にグローバル・スタディーズ専攻の基礎科目 1 4 科目の受講を許可し、更に教養科目群の中に英語による「Special Lecture」を開講するなど、英語による授業のみで学位が取得できるコースの留学生と日本人学生と一緒に受講ができ、両者の交流が深まっている。</p> <p>海外大学共同利用事務所の整備については、インド（ニューデリー）に計画どおり設置され、日本から派遣した事務所長をはじめ、所要のスタッフを置いて業務を実施し、テレビ会議システムを利用して日本の大学情報の発信や現地におけるネットワーク構築が行われていることは評価できる。</p> <p>目標の達成状況については、留学生受入数は学士課程が目標を下回っているものの、全体では目標を上回っている。外国人教員数は目標を上回っているものの、全教員数が増加したため外国人教員比率は目標を下回っている。また、大学間交流協定等に基づく交換留学における派遣・受入学生数は目標を下回っており、特に派遣学生数については目標の 8 割程度にとどまっているため、より多くの学生が海外体験できるようなプログラム内容の充実が望まれる。</p> <p>今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、本事業によって行われた国際交流の枠組を維持するとともに、グローバル・ゲートウェイ・プログラムの実施や各種国際協力事業への展開等、特色を持った事業を推進し、更なる発展を期待する。</p>	